

# 「見て見ぬふりをしてはいけません」

西予市在住 大池ひとみ

いつも変わらぬご支援をありがとうございます。

振り返ってみれば、私のJAL人生は「イレギュラー」の連続でした。初フライトで、急病人の第一発見者となって以来、いろいろなトラブルに遭遇しながら、33年を過ごしました。辛いにも、身の危険を感じるような目に遭うことはありませんでしたが、……

たとえば ニューヨークを離陸時、エンジンが鳥を吸い込んでダメージを受け、燃料を捨てて、ニューヨークにUターン。代わりの



DC-8をバックに  
若かりし頃の大池さん（右端）  
左端は争議団の白井さん

## JAL 愛媛原告を支える会



発行：JAL不当解雇とたたかう愛媛原告を支える会  
連絡先：愛媛自治労連会館3F愛媛労連内  
松山市三番町8-10-2 Tel. 089-945-4526

エンジン到着まで24時間待ちました。

北京離陸直後に一つのエンジンが止まってしまい、即、引き返し。日帰りのはずが北京泊まりとなりました。

仙台空港よりハワイ行チャーター便に乗務するため、成田から札幌へ仙台と飛行機を乗り継いで、前日に仙台に到着。翌夜、空港に出頭したら、成田から飛んでくるはずの飛行機が壊れてしまつて、フライトキャンセル。次の日、新幹線で帰京。

## “現場復帰まで応援”

日本国民救援会愛媛県本部  
佐藤 壽兼

に呼び止められ「カナダ人夫婦に親切にしてくれたありがとう。またすぐにエアカナダに乗ってカナダへ来てください」と言われ楽しかった思い出があるからです。

しかし、JALの林さんや大池さんの話を聞く中で、JALという会社の無責任な経営体制を知り、CAさんたちの大変さが分かりました。現場からの率直な意見を言う人々を排除するなど言語道断です。一日も早く解雇を撤回しベテランのパイロットやCAを現場へ復帰させてもらいたいと思います。そうなるまで応援したいし、JALで海外へは行くことはありません。

## 私もおも 応援 します

私は日本の会社の飛行機には乗りたくないで、国内は仕方ありませんが、海外へ行くときには外国の会社の飛行機に乗っています。日本人のCAは楽しそうに仕事をしている風ではないし、話しかけるのも迷惑かなと思う雰囲気だからです。他方、一例を挙げるとAIR CANADAを利用した時には、決まった仕事が済むとCAさんたちは隅のほうに集まって冗談を言い合ったりして楽しそうにしていたし、私が隣の座席の年配の夫婦と仲良くなっていたのを知ったのか、着陸後に機内から出ようとしていると、年季の入ったCAのチーフ

16日間の南回り（ロンドン行き）が、バンコクの空港閉鎖により、バンコクで待機していた我々は、19日間のアテネ行きに変更（乗務する機種も変わりました）。

アンカレッジ経由の北回りでロンドン滞在中、南回りに欠員が出て、私に白羽の矢が当たり、ロンドンから一人、ローマへ飛ばされました。

香港滞在中、台風の直撃を受け、ホテルに缶詰め2日間。マニラでも1日。（裏面へ続く）

ストライキのため、飛行機が日本を出発できず、ハンブルグで延泊することとなったのですが、ホテルが満室で追い出され、季節外れの海沿いのリゾートホテルに連れて行かれました。

東京くバンコクくカラチを経由してアテネにやってくる飛行機が途中で故障して、来なくなったことがあります。南回りは週に1便しかありません。

ざっと頭に浮かんでくるイレギュラーの数々です。他にも、お客様同士の殴り合い、客室乗務員への暴力(翌日になっても、ほつぺたに5本指の跡が赤く残るほどの平手打ち)、座席でのいかがわしい行為、精神を病んで奇行を繰り返すお客様、乱気流(怪我人こそ出なかったものの、客室が真っ赤に染まりました……赤ワインが飛び散って)。

ニューヨークやアテネやロンドンなどの都市が出てきて、いいなあ、と思われた方もいらっしやるかもしれません。でも、考えてみてください。スケジュールが狂うと、歯医者予約、ボーイフレンドとのデート、友人との旅行、自分の結婚式さえ、ダメになっちゃうんですよ。イレギュラーがなくても、スタンバイで呼び出されれば、そのあとのスケジュールが全部崩れてしまい、習い事もできません。今のヨーロッパ線は2泊4日ですが、直行便ができるまでは2週間でした。南回りや南米はそれ以上です。その間、家を空けるという事は、家のことが何にもできないという事です。途中で日本に帰ることはできません。幼子をこの手に抱くこともできず、家の食事も洗濯

も掃除も、親を病院に連れて行くこともできず、犬の散歩にも行けないわけです。もちろん楽しいこともたくさんありました。が、そういう過酷で不安定な日々の中で長年仕事をしてきたということをわかっていただきたくて並べてみました。

その上に30回以上のダイバー(代替着陸)があります。霧や台風や強風や雪などの気象条件の悪さや、飛行機の故障などのために目的地ではない別の空港に行ってしまうなんてことは、ほかの人に聞いても、多くて3回とか4回とか、そのくらいなのです。30回を超えるなんて、ちよつと普通じゃないですよ。ギネス級です。その話には、いつか機会があれば、ぜひご披露したいです。



第90回愛媛中央メーデー 壇上で訴える争議団

私たちの仕事は、全員で協力して、お客様を安全に快適に目的地までお連れするのが使命です。飛行機が普通に飛んでいる分には、先任客室乗務員の出来不出来はあまり気になりません。ところが、イレギュラーがあると、先任客室乗務員の力量がそこで問われます。私はそれらの事例を体験しつつ、部下として、イレギュラーに対するそれぞれの先任客室乗務員の指示や決断の仕方を見せてもらいました。あるお芝居の場面で、「強

靱な精神を持った者は神と結託する。だが、弱者は悪魔と手を結ぶ。それは、衝撃が起こるまで、誰にもわからない。」という台詞が出てきます。まさにそのとおりでした。

34年目にして、最大のイレギュラーに見舞われたわけですが、「おかしいことはおかしい」と声をあげ、差別されても、解雇されても、明るく元気な前を向いて闘っていることを、私は誇りに思います。疲れ果て心折れそうになったとき、手を差し伸べてくれる仲間や励まして下さる支援者の方々が「悪魔の囁き」から救ってくれているんだなあと感じます。

新人の頃、先輩に言われたことを思い出します。「急いで客室の通路を歩いているとき、床にゴミが落ちていたとします。そのとき、しゃがんでそれを拾わないと、次に通ったときは、平気で跨いで行ってしまいます。見て見ぬふりをしてはいけません。」現実から目をそらさず、しっかりと明るい未来が待っていると感じています。

職場復帰できるまで、諦めないで頑張ります。さらなるご支援を引き続き、よろしくお願い致します。



2019.4.23 J R前宣伝を終えて